



【月の概要】桜前線が日本を駆け上り、生氣あふれる春の盛りとなります。8日は仏教の始祖・お釈迦様の生誕を祝う「花祭り」。下旬には大型連休が始まります。【旧暦の名称】卯月

(うづき)花名残月(はななごりづき)夏初月(なつはづき)

東日本大震災が発生してから、もう二年以上の歳月が過ぎ、追悼行事がメディアを通して放映され、当時の惨状がそのままに残るガレキの山に、復興を祈念しないものはありません。将来起きるといわれる東南海地震の被害想定が、天文学的な数値も含めて報道され、この国の被害の大きさに、人心の動揺が懸念されます。

こんな時期ではありますが、政権が自民党に移行してアベノミクスの効

果による(？)日本経済の動きが活発化しつつあるとき、三十有余年の歴史を歩んできた知的障害者福祉施設「沢谷荘」の老朽化した施設の改築をしなくてはなりません。吉と出るか凶と出るのかわかりませんが、計画通り平成二十五年度に着

東山荘も五年位のスパンで改築

明日に希望をつなぐ
光耀会理事長 松原丈夫

もちろんその為には克服しなければならぬ問題もあり、法制度も変わってきておりそれに対応することも大切で、「地域移行」にシフトしながら、グループホーム、ケア

東山荘も五年位のスパンで改築

光耀会だより

平成25年4月

社会福祉法人 光耀会

No.04



ご意見、ご感想をお寄せください。

3名様に、光耀会オリジナルクッキー、マドレーヌ詰め合わせをお送りします。送付先は、以下のどの施設でも結構です。

社会福祉法人 光耀会 会報 光耀会だより No.04

平成25年4月3日 発行

- ・障害者支援施設 沢谷荘 三田市沢谷 556 〒669-1335 Tel 079-567-2030 Fax 079-567-2126
- ・障害者支援施設 東山荘 三田市東山 898-1 〒669-1353 Tel 079-568-1900 Fax 079-568-1052
- ・就労継続支援B型事業所 スクラム 三田市中内神 427 〒669-1334 Tel 079-567-0021 Fax 079-567-0021
- ・工房アーチ 三田市下内神 841 〒669-1333 Tel 079-567-0848 Fax 079-567-0848
- ・かがやき さんだ 三田市下井沢 142 〒669-1315 Tel 079-567-2430 Fax 079-567-2431
- ・日中活動支援センター ねくすと 三田市中内神 427 〒669-1334 Tel 079-567-2600 Fax 079-506-1237
- (↑ 居宅介護支援事業、福祉有償運送事業)
- ・特定相談支援事業所 ねくすと 三田市下井沢 142 〒669-1315 Tel 079-567-2430 Fax 079-567-2431
- ・グループホーム 光耀会クラブ 神戸市北区道場町塩田 2752 〒651-1502 Tel 078-985-8326 Fax 078-985-8326

める為には、ハード面の充実に合わせた職員の資質の向上を図ることが大切で、大きな変革に対応できる人によって「光耀会」グループが地域の信頼を得ていくことを目標に、相協力していきます。

この画期的な事業を契機に、あくまで利用者を中心にして、職員、保護者、関係者が心一つにし、結び、夢の実現の為にスタートしたいと思っておりますので、これからも格別のご協力、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



障害者総合支援法と 光耀会

光耀会常務理事 岡本 征

障害者総合支援法が四月一日施行された。今回の法改正の主な特徴は制度の谷間を埋めるが中心となっております。その制度の谷間とは、

第1 難病患者に対する障害程度区分認定による公的支援を行うこと。

平成二十四年十二月現在、障害福祉サービス等の対象となる疾病は百三十疾病が認定され、今後、区分認定を受けることにより公的支援が受けられることとなります。

第2 障害程度区分の判定改正

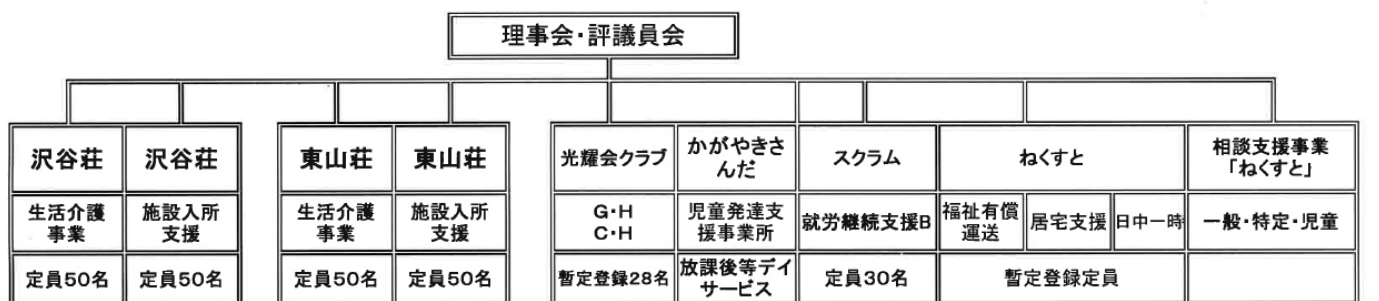
現在の程度区分判定の基礎は、介護保険制度の判定が基礎となっており、支援を要する知的障害者、精神障害者にとっては判定の正確さや必要性に欠けていた。あくまで支援をどれくらい必要としているかが求められるため、正確に判定できなかったことから、どれくらい支援ができるか、今回は支援の必要度による大幅な改正を行うこととなった。

以上が主な改正点であります。光耀会は組織図のように、障害者の処遇の充実を図るとともに、障害児者の安全、安心を、ゆりかごから墓場まで一貫した支援のバックアップ体制のできる組織が出来上がりました。

第3 共同生活支援、共同生活介護の統合

二分化されていた支援と介護を統合

今後、相談支援を含め、地域の福祉の中心として皆さんの信頼にこたえられる活動をしていく所存です。



社会福祉法人 光耀会

【法人経営理念】

社会福祉法人 光耀会の「光耀」とは、「雲の間からさす 一筋の光」のことをいい、「障害を持った人たち一人ひとりに支援の光を」の思いから命名し、その心は「やさしさをさりげなく」地域の中で、その人らしく生き生きとした生活を送れるよう支援し、障害者も障害者も共に生きる共生の地域づくりの実現を目指す。また、法人内でのコンプライアンスを徹底し、憲法、法律、政省令、規則、条例等の遵守に勤めます。そして、施設の機能を生かして地域福祉の発展に寄与します。

【基本方針】

- 利用される方々の人権を尊重し、決して権利侵害は致しません。
- 利用される方々の立場に立った 質の高いサービスの提供に努めます。
- 利用される方々の自立と社会での経済活動への支援を行います。
- 職員の専門性の向上に努め、一人ひとりがキャリアアップを目指します。
- 職員一人ひとりが自主評価し、自らの手でコンプライアンスの徹底を図ります。
- 自らの意志で、その人らしい生き方への援助と支援を行います。
- 地域の人に愛され、期待され、地域とともに歩む施設づくりを目指します。
- 地域の人たちをはじめ、ボランティアの方々福祉関係団体と連携協力し地域福祉の向上に努めます。

【平成25年度 社会福祉法人 光耀会 事業計画】

新たな障害保健福祉施策が、本年度から講じられるため、当法人として本年度は下記の項目を重点課題として実施し、光耀会のステップアップを図ります。

1. 新会計導入について

平成27年度より開始される新会計基準の導入については、現在使用しているソフト会社と調整しながら、平成26年度4月導入を目指しています。

2. 事業体系の見直し

事業の一つ一つの徹底した見直しを行い、適材適所の職員の配置による将来を見据えたやる気のある職員配置を行い、地域から事業の信頼と期待される事業運営を目指します。

3. 雇用の見直し

社会保険労務士の導入により、一昨年より処遇、人事考課制度等について改正を行い、働きやすい環境づくりを行ってきました。本年度も引き続き、制度の充実を図り、職員のレベルアップを行います。

4. ホームページの開設

アーチ（就労継続支援B型事業所）におけるクッキーづくり、パン造りが軌道に乗り始め、製品の種類も多数できるようになったため、本年度から本格的に販売に結びつけ、所員の工賃アップにつなげるため、ホームページを開設し販売の増強に努めます。

5. 障害者支援施設 沢谷荘 の新築計画

沢谷荘新築計画は順調に進み、三田市における各種許可（農地転用他）、国庫補助の結果待ちとなっております。

6. 光耀会クラブ の見直し

数年先には、施設入所者とグループホーム（ケアホームを含む）利用者の数が逆転し、地域で暮らす障害者の数が多くなります。また、グループホームとケアホームが合体することとなり、今後ますます地域移行が進むこととなります。光耀会クラブとしても現状に甘んじることなく、施設利用者の地域移行と就労支援に向けた取り組みを計画していきたい。

以上を重点項目として掲げ、法人の使命を着実に実行し、地域の中で共生の社会を作る一翼を担っていきます。

グループホーム 光耀会クラブ

〒651-1502 神戸市北区道場町
塩田2752
TEL 078-985-8326
FAX 078-985-8326

動きや、入所施設や短期入所に空きがない状況も影響しているものと思われる。また、利用に際して家賃

助成金の給付により、経費負担も施設入所を利用するのほとんど変わらない事も要因の一つであると思われる。

今後も法人は、地域の財源の一つとして入所施設を母体としたグループホーム、ケアホームの展開は必要となってきましたが、職員配置の

光耀会クラブでは、現在合わせて七か所のグループホーム、ケアホームを展開しており、定員は二十八名（現員二十五名）で運営しています。昨年から入居希望の相談も増えており、将来的な入居に向けての体験入居を利用されるケースもあります。その背景には地域移行促進の

問題や運営上の防火管理は大きな課題の一つと思います。ニュースや新聞等を見てご存知の方も多いと思いますが、昨年から今年の二月までに認知症高齢者グループホームでの火災が相次いで発生し、障害者関係のグループホームにおいても火災が発生し、残念なことに何れも死亡者が出ています。当然、現行の



県営住宅のグループホームと、育成会のグループホーム ふたつのグループホーム合同の、避難消火訓練



グループホームにも何らかの形で国からの指導や改善命令が出されることが予想されますが、消火器の設置以外に自動火災報知設備のみならず、簡易型のスプリンクラー設置までの努力は人命保護の為に必要となってくると考えられます。当然コストはかかりますが、何よりも人命に代わるものではありません。

しかし、今まで法人のグループホーム、ケアホームは「家庭的な生活環境を大切に」との思いで各ホームにおいて定員を四名までとして展開してきましたが、今後は防火対策に伴う経営上の観点から、定員増加の方向も検討する必要性が生じてきました。また、平成二十六年四月

一日より、グループホーム、ケアホームが一元化されます。サテライト型住居（本体グループホームを拠点に、複数の建物、アパートやマンション等を借りて、地域生活を支援する形態）の運営も可能になります。ホーム内で入居者の転居が、より柔軟に行え、居宅介護事業者によるヘルパー派遣も可能になります。また、母体となる居住から、世話人が一人住まいの利用者さんを巡回訪問したり、民間アパートの一室を借りての一人住まいを支援できるようなになれば家庭的な雰囲気を出しやすくなる。そうなることが出来ると共に、入居定員を一人ずつ増やせるというメリットもあると思われ

ホームの現状と課題を踏まえ、今後も制度の動向を把握し、可能な限り利用希望に応えたいと思っています。そのためにも、現行のホームにおいては十分な防火対策を講じ、地域住民への理解を得る必要があると思えます。

（サービスマネジメント責任者 屋鋪治）

管理者としての職務に就いて三年が過ぎました。振り返れば、管理業務を遂行する過程でいろいろな気づきがありました。自分の弱みもある程度分かってきました。そのほんの一部を公表？しますと、「大事な事を後回しにする」ことが往々にある点です。実際に小事を処理す

ることに追

わかれ、気が付けば問題が大きくなってしまうことがありま

え、自信をもって「さあ、希望通り地域へ」とは簡単にはいきません。何度か同乗して練習をしています。が、免許はあるものの公道を走るとなると大変！広義での安全、金銭管理、食事の栄養面等、支援の継続は必要です。ただ、本人の夢である地

障害者支援施設

沢谷荘

〒669-1335 三田市沢谷556
TEL 079-567-2030
FAX 079-567-2126

ことでしょうか。

沢谷荘は、今後建築を控えています。これは大きな事業ですので覚悟をもって慎重かつ意欲的に取り組むたいと考えています。管理者としての職務で、やりたいこと、やるべきことは、沢山あるのですが、今年一年はそこに全力を注ぎたいと



域の一人暮らしを支援していける喜びは感じています。一方、入院生活を余儀なくされている方もおられ、看取りまで人としての最後のステージにどのような寄り添って支援していくのかという現実にも直面しています。

社会福祉制度も変革期であり、利用者の障害や年齢も多様化し、それらに対応したサービスの枝葉が増えていく現状があることから、ひとつひとつの事例に対して深く考察していくことにより、管理者としての分析力と洞察力を養っていきたいと考えております。

（沢谷荘 管理者 斉藤義昭）

新年度が始まりました。今年度は、建築を控えた沢谷荘にとって、大きな節目の一年となります。新しい建物に負けない内容の支援をめざし、職員一同努めます。

さて、法人内の各事業所において、人材育成の一環として実習の受け入れを行っています。ただ、実習と言っても福祉を志している実習



生はヘルパー実習くらいで、多くが教員免許や保育士資格の為の実習がほとんどです。しかし、職員は実習生に支援や介助を教えることで、普段行っている業務の内容を振り返り、基本を再認識できる良い機会として心掛けています。そういった実習においても、受け入れ当初は『別』の目的だった実習生が、終了時に感想を聞くと将来の就職について福祉も視野に入りたいと話す方もいます。当然、言っている実習生のすべてが本心ではないかもしれませんが、その瞬間に地域における財源として人材育成が担えたと実感します。

（サービスマネジメント責任者 屋鋪治）

障害者支援施設

東山荘

〒669-1353 三田市東山898-1
TEL 079-568-1900
FAX 079-568-1052

新たな年度を迎え、昭和五十九年の開設以来、東山荘は今年二十九年を迎えることとなります。来年は文字通り節目の年であり、光耀会でお世話になり、人生の半分を東山荘と共に歩んできたこととなります。最近では、最後の心配？をするような歳になりました。振り返れば、二十代であった利用者の方が今では四十代になられています。利用者の方も人生の半数を東山荘で過ごされているという方も多くおら

るることになります。改めて利用者の方々の人生を任されている、貴重な一日一日が私たちの支援により、良くも悪くもなってしまうという重責を認識し、利用者の生活を支えていかなければと感じています。

先日、春の恒例行事である「お花見」を行いました。天候に恵まれ、



絶好の“お花見日和”となり、満開の桜の下でお弁当や花見酒とまではいきませんがビールをいただき、そしておやつには花見にはつきものと言われる“花見団子”をいただきました。満開の桜同様に、利用者の笑顔も満開のひと時でした。

東山荘のある三田市本庄地区では、地域住民によるささえあい活動として、買い物や送迎や代行、通院の付添や送迎などを行う「まごの手本庄」というボランティアグループがあります。昨年の夏から東山荘も地域の一員としてボランティアグループに加入させていただきましたし

担軽減を図ることを目的に実施しています。

ホームヘルプ事業は、自宅で入浴や排泄、食事等の介助をしたり、調理・洗濯及び掃除等家事や生活全般にわたる援助や行動が困難で介護が必要な方に介助や移動補助を行っています。

福祉有償輸送では、福祉車両で事業所への通所時や通院、外出等の移送サービスについて安全運行と整備管理をきちんと行い実施しているところですが、どの事業に於いても利用が増え、可能な範囲で個々のニーズに沿った支援ができるよう努めています。利用希望の時間帯が重なったりすると、全ての利用希望に応えることができない状況も発生します。せっかく利用を希望された方にご迷惑をおかけする場合があります。今後の課題の一つとして捉えています。

日中活動支援センター

ねくすと

〒669-1334 三田市中内神 427 番地
TEL 079-567-2600
FAX 079-506-1237

な：落ち着きがあるような：静かな雰囲気、十八歳以上の方々の日中活動の場となっています。その他事業内容は、変わりなく、日中一時支援事業では、日中における活動の場を提供し、見守りや日常生活における支援を行うとともに、家族の方の就労支援や介護の一時的な負

次に、活動状況ですが、日頃は静かな雰囲気の中で、日中一時支援事業を利用される皆さんは、それぞれの希望により創作活動や余暇活用

た。月に一回程度、通院の送迎や図書館へ行く送迎のお手伝いをさせていたただいています。地域の皆様の生活のほんの一部に過ぎませんが、かわりを持たせていただけるとに喜びを感じています。また、ペアで活動しますので、メンバーの方と一緒に活動させていただくなかで、地域の方々の関わりが持てることも、大きな財産です。

また、本庄地区の高齢者サロンなどの送迎も定期的に依頼を受けて行い、地域の一員として、地域の方々の関わりが持てるようになりました。また、月に一回行われる定例会では、利用される皆様が安心してご利用してもらえ、お役にたてるようにと、次々課題が出てくることについて、前向きにそして利用される方のためにと検討され問題をひとつひとつクリアしていかれる様子はまさに東山荘の利用者の生活を支援することと同じであると痛感します。「まごて本庄」のメンバーの一員としては地域の皆様から学ぶことが多く、お役にたてる域

をしています。この三月より特別支援学校を卒業された若い人たちの利用が始まり、土曜日、日曜日は活気が出てきました。行事としては、昨年はグリコの工場見学や高知県の桂浜方面へ一泊旅行に行き坂本竜馬記念館、アンパンマンミュージアムを見学してきました。また、かがやきさんの児童の皆さんと合同で、夏祭りでゲームや花火をしたり、ハヤシライス・フランクフルトを食べました。餅つき大会では餅つきを経験した後に、ぜんざいやきな粉餅を作って皆たくさん食べました。合同でできる行事については従来通り実施していきたいと考えています。

これからも利用される方が楽しく過ごせるよう創意工夫をします。ぜひお気軽に致します。

(ねくすと管理者 関岡保弘)

にはありませんが、このような機会を得ることができたことを感謝し、今後も地域のニーズに応え、さらに活動の幅を広げていきたいと感じています。

(副施設長 芦田愛)



就労継続支援B型事業所

スクラム

〒669-1334 三田市中内神427
TEL 079-567-0021
FAX 079-567-0021

工房アーチ

〒669-1333 三田市下内神841
TEL 079-567-0848
FAX 079-567-0848

【スクラム】

就労継続支援B型事業に移行し、三年が経過しました。利用者の皆さんは環境の変化や新しい作業に戸惑いと期待を持ちながら慌ただしく日中生活を送ってきました。まだまだ課題を残しながらも、笑顔絶えないスクラムをご紹介します。



現在、二十八名の利用者が在籍されています。年齢は十八歳から八十歳の方まで。百メートルを数分かけて歩く方からフルマラソンを四時間ちよつとで完走する方まで。性格は、瞬間湯沸かし器のような方から、悟りを開いたような方まで。常に何かとおしゃべりしている方から、硬派で無口な方まで。指先が器用な方から、体力で勝負する方まで。歌唱力が抜群に良い方から、そうでもない方まで

。：。たくさんの個性が溢れる中で、限られた場所や作業内容に、どこまで個々に見合った作業を提供することが出来るのか。又、潜在的な可能性を見出し、働くことに対する意欲を引き出す支援ができるのか、職員の試行錯誤が続きます。

当然、スクラムの中だけでは解決できない問題がたくさんあります。そんな時に頼りになるのが、三田市内にある作業所仲間です。毎月一回程度のペースで市内七か所の作業所の代表が集まり、夜遅くまで話し合いをします。「こんな作業があるけれど、一緒にやらないか。」とい

った仕事の話から、市議会議員に出席してもらい、障がい者への理解を求める勉強会を計画する等、取り組む内容は様々です。各作業所で抱えている問題について検討する際も、経験豊富な所長さん達のアドバイスは大変参考になり、多くの課題を一つひとつ真剣に丁寧に解決しようとする姿勢は、大変勉強になり、良い刺激になっています。

【工房アーチ】

スクラムから数百メートル離れた「工房アーチ」では、年々クッキーやパンの注文が増えています。スクラムを利用されている方の保護者が自治会などへ声を掛けていただき、少しずつ地域の方々にアーチの製品を知っていただくようになりました。また、最近ではフラワータウンのダイエーや市内のイベントに積極的に出店するようにしています。今後は市役所内や福祉保健センター等にもパンを置かせてもらう計画を立てております。アーチのパンやクッキーをより広く地域の方にアピールしたいと考えてい

ます。

最後に、これからのスクラムをどのように展開させていくかですが、もともと、「就労継続B型」や「福祉的就労」といった言葉の中に明確な定義はありません。収入を得るためだけの場所ではなく、心理的な満足を得るためだけの場所でもありません。ただ、利用者の「働きたい」という願いと、それに応じるために働く機会と場所を提供し「働きつづける」ことのできる環境を整えていくことを最優先にして、事業を展開していきたいと考えています。

(管理者 石川正樹)



かがやき さんだ

〒669-1315 三田市下井沢142

TEL 079-567-2430

FAX 079-567-2431

平成二十四年三月に、児童デイサービス かがやきさんだ を開設しました。これまで、地域活動支援センター ねくすと をご利用いただいていた児童の皆さんには、かがやきさんだへ移行していただき、新しい場所でのご利用となりました。場所が変わったことで初めは不安があったことだ

と思っています。また、医療的ケアを必要とするお子さんの利用希望もあり、職員が医療ケア従事者研修を修了したことから、やつと受入れができるようになりました。

開設から一年が経過し、幼児さんの新規利用や市外から来られる方も増えました。年齢は二歳〜十八歳までのお子さんが上手に幼児さん

と遊んでくれており、新たな一面が見られる場面もあります。幼児さんも年上のお兄ちゃん、お姉ちゃんが来ると、喜んで駆け寄ります。これからもお子さんたちにとって楽しい場所になるような事業所づくりを考えたいと思います。各事業の担当より、事業の様子を説明します。

(管理者 宮城明子)

【 児童発達支援 】

子さんの療育の場である、児童発達支援事業と、就学しているお子さんの支援である 放課後等デイサービス二つの事業を行っています。職員はねくすとから引き続きほぼ同じメンバーで行っていますが、保育

【 児童発達支援 】 平日の朝は、幼児さんたちのかわいい声が響いてはじまります。今は二歳から五歳のお子さんが二人以上多い日は十人来所されます。

士、言語聴覚士等の職員を配置することにより、支援の充実を図る

朝の会から始まり、日課の中で初めはなかなかじつと座れなかったお子さんが、次第にお返事ができ、

手遊びができるようになる様子を見てみると、子供たちの成長と可能性を感じます。子供たちが、興味を持ちそうなことを模索しつつ、心と身体を開放して、楽しく遊び、生活習慣を身につける手助けをしたいと思っています。(保育士 石黒洋子)

【 放課後等デイサービス 】

小学校一年生から高校三年生まで、幅広い年齢の子供たちが利用しています。それぞれの学校から送迎のバスで、かがやきさんだに到着し、宿題をしたりテレビを見たり、外でボール遊び等をして楽しい時間を過ごしています。

特に土曜日、日曜日や長期休暇中の時などはバスで遠回りして公園で遊んだり、川で水遊びを楽しんだりして、朝から夕方まで元気な声が響いています。様々な環境の中で頑張っている子供たちが安心して遊べ、笑顔が溢れる場を今後も提供していきたいと思っています。

【 医療ケア 】

(サービス管理責任者 勝地大輔) 医療ケアにおいては、月に平均し

て延べ十八人くらいのお子さんが利用されています。来られた時に笑顔が見られると、まずはホッとします。かがやきさんだに到着すると、友達のにぎやかな声に迎えられながら、ベッドでゆっくり過ごしたり、晴れた日には散歩やサッカーだつてするんですよ。健康に気をつけてたくさん楽しみ、笑顔で保護者の方の元に帰っていただけると職員も二度目のホッを感じます。これからも笑顔でゆったりくつろげる場を提供していきたいと思っています。

(医療ケア担当 西川裕子)

